

輪島市三井町における地域の魅力発見ワークショップについて

○山本 亮（東京農業大学地域環境科学部造園科学科）

△矢野加奈子（東京農業大学大学院造園学専攻）

△麻生 恵（東京農業大学地域環境科学部）

近年、「文化的景観」の制度が成立し農村景観に対する関心が高まっている。そのため地域固有の景観の保存やその活用方法に注目が集まっている。そこで景観の特性を把握し、評価することや地域住民の意識を高めることが必要となってくる。

対象とする石川県輪島市三井町は地域の特徴を表した土地利用が見られる美しい伝統的な農村景観である。ここ三井町に関しても文化的景観保全の動きが見られるが住民の景観に対する意識はまだ低い。

東京農業大学造園科学科自然環境保全学研究室では昨年から文化的景観選定を視野に入れた保存・活用の方向性や課題を検討した。そこで地域住民との関わりや意識向上が必要であると考えられたため、今年は地域住民と地域の景観が持つ魅力について話し合うためのワークショップを開催し、三井町の持つ魅力などについて話し合い魅力マップを作成した。

今回は石川県輪島市三井町で行われた三井町魅力発見ワークショップの内容を紹介する。